平成３０年度　自 己 評 価 表　（ 中 間 評 価 ）

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	技術を研き、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	１．学力の向上 ２．豊かな人間性の育成 ３．キャリア教育の充実と進路実現

年度当初						評価結果　１０月　（中間評価）		
評価項目	評価の具体項目		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学力の向上	① 授業改革と学力の向上		【授業改革】 ◇研修会の実施（タブレット端末活用７月、学力向上１０月） ◇一人一公開授業を実施（実施率６７％） ◇掲示・連絡によって他校のAL公開授業への参加を教職員に勧奨、参加人数延べ１７名 ◇授業アンケートを各科で集約、それに基づいた改善方策を協議 ◇学校評価アンケートにおける生徒の授業満足度は、７４．７％ 【学力の育成】 ◇進研模試における理数工学科のＳＳ数値目標未達成 ◇基礎力診断テスト（12月実施）のＤゾーン（基礎力不足層）の生徒の割合は、４９％（工業科１，２年） ◇放課後の進学補習を計画どおり実施 ◇各科で放課後補習や個別指導を適宜実施、基礎力定着の推進（１年生は夏休みに１週間の勉強会を実施等） 【学習環境の整備】 ◇「５Ｓ･あさひ」の実践に努めるが、良い学習環境を維持できている教室とできていない教室がある。	【授業改革】 ◇「主体的・対話的で深い学び」を実践する職員数の増加 ◇ICTを活用した授業づり ◇80%以上の生徒が授業に満足と回答 【学力の育成】 ◇基礎力診断テストにおける、基礎力不足層（Dゾーン）の減少（全体の４０%以下） ◇専門教育に対応する数学力の定着 【学習環境の整備】 ◇「整理・整頓・清掃」ができる生徒 ◇生徒自身による落ち着いた学習環境づり	【授業改革】 ◇学力向上研修会を２回実施（７月・１１月「学びの文化祭」） ◇他者の授業を参観し、指導力の向上を図る ◇他校での公開授業を室内し、教職員への研修を勧奨 ◇「主体的・対話的で深い学び」の実践になるために「アクティブラーナー（授業研究のための動画）」を活用 ◇ICT活用に向けたネットワーク環境の整備 ◇授業アンケート及び集計結果に基づ授業改善を実施 【学力の育成】 ◇進学および基礎学力向上・定着のための補習の実施 ◇低学力層の生徒に対する個別面談・指導の実施（基礎学力充実補習） 【学習環境の整備】 ◇「５Ｓ･あさひ」の励行により、教室整備と授業規律の確立	【授業改革】 ◇７月に学力向上研修会を予定どおり実施 ◇一人一授業公開の計画表を作成、一部で実施開始 ◇校外研修室内校の設置による、他校での公開授業室内と、職員への参加呼びかけ ◇７月にICTタブレット活用及びアクティブラーナーの利用について研修会を実施 ◇グラレット端末利用規定を策定し、全体へ周知 ◇図書館のWi-fi環境強化は来次進行中 ◇授業アンケートを実施し、教科ごとに改善策などを検討 【学力の育成】 ◇数学の基礎補習を数学科及び各工業科で一部実施 ◇進学補習（放課後補習、個別指導）、検定対策補習などを実施 ◇基礎力診断テストの結果を踏まえ、低学力層に対する指導を学年ごとに実施 【学習環境の整備】 ◇教室の３Ｓ（整理・整頓・清掃）は概ね良好、落ち着いて授業に臨む姿勢が整う ◇朝清掃後の「３Ｓ」の状態を、放課後まで持続させること（清潔）と、習慣化（しつけ）の「２Ｓ」に課題	C	【授業改革】 ◇１１月に「学びの文化祭」として第２回学力向上研修会を実施予定 ◇一人一授業公開を、予定に従って実施 ◇校外研修の室内と参加の呼びかけを継続 ◇教員用タブレット端末（５台）の活用を検討 ◇タブレット端末の電子ファイルを保存管理できるようネットワークを改良 ◇教科で検討した改善策に従い授業を実践 【学力の育成】 ◇未実施の科について、数学基礎補習を実施 ◇進学補習・検定補習を継続実施 ◇引き続き、基礎力診断テストの低学力層に対する指導を行う ◇各種模試について、把握分析を継続 【学習環境の整備】 ◇引き続き「５Ｓ･あさひ」を励行 ◇教室の窓開め･消灯･施錠、及び、放課後に教室を離れる際の身の回りの確認など、教室と私物の管理意識を高める取り組みを推進
	② 主体的な学習態度と学力の育成		【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇基礎力の定着、員格・検定合格、進路実現に向けた自宅学習時間が不足 自宅学習調査：理数工学科138分、工業学科87分 （参考）家庭での情報端末使用時間：平均106分 ◇授業態度は概ね良好だが、授業に臨む準備が十分ではない生徒が各クラスに若干名 ◇学習意欲を喚起する課題を各科で適宜提示 ◇資格・検定の受験を各科・各教科から奨励 ◇生徒の現状理解と進路希望の把握に向け、担任による面接を計画的に実施	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間の増加（目標と する学習時間：理数工学科150分、工業学科90分） ◇規律ある授業展開、場に応じた速やかな動作・集団行動ができる生徒 ◇物品管理、課題提出、時間の使い方などの、自己管理能力の涵養 ◇興味・関心を持ち、進路意識を向上させ、主体的に学習に取り組むことのできる生徒	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習調査の結果に基づき、次の目標を設定するなど、各生徒の意欲喚起を促進 ◇授業開始･終了時の挨拶をはじめとする「ＳＳ･あさひ」の推進 ◇自己管理能力を育成･向上させる、フォーサイト手帳等を活用 ◇各科で適量の課題を適宜提示 ◇引き続き、各科・各教科による資格・検定の受験を推奨し、受験者に補習を実施 ◇進路意識を向上させる授業（座学及び実習）や面接指導を効果的に展開	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習調査：理数工学科188.9分、工業学科99.2分。 ◇自宅学習調査を用い、家庭での情報端末使用度が平均115.3分 ◇各科で課題を適宜提示、学習意欲を喚起 ◇各科・各教科による資格・検定の受験を奨励 ◇年度当初及び夏休み明けに担任による面接を実施し、生徒の現状や進路希望を把握	C	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習調査の結果に基づいた各生徒への意欲喚起 ◇継続して各科で適量の課題を適宜提示 ◇引き続き、各科・各教科による資格・検定の受験推奨、受験者に補習を実施 ◇面接の推進と継続による生徒の学校生活と学習状況の把握
2 豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養		【人権教育・性教育】 ◇ＷＹＳＨ教育ＬＨＲを１年生で実施 ◇性教育ＬＨＲを全学年で実施、他者の人権を尊重する態度の育成に課題 ◇特別支援を必要とする生徒の増加、支援方法に課題 【ハイパーＱＵ、いじめアンケート等の活用】 ◇職員研修で全職員に生徒の現状を周知、クラス目標を設定 ◇クラズ(ク・ＬＨＲ･面談等)に基準を活用するも、生徒自身の自己理解に課題 ◇いじめ問題に早期に対応、各教科でも人権教育を推進 ◇悩みを抱えている生徒が存在し、生徒が相談しやすい体制を整備することが必要 【指導力向上の職員研修】 ◇職員が人権教育に関する校外研修「一人一研修」が６割弱にとどまり、かつＬＨＲ等への研修成果の還元に課題 ◇情報提供は速やかに実施	【人権教育・性教育】 ◇生徒の人権意識が高揚し、他者の人権や存在を尊重できること ◇生徒の実態に合った支援方法により、特別支援を要する生徒が安心して生活できること 【ハイパーＱＵ、いじめアンケート等の活用】 ◇自己理解が比率で、集団規律が揃ってできること ◇いじめが無く、学校生活を安心して送れること ◇悩みが相談しやすい雰囲気の確立 ◇学校が楽しいと思えること 【指導力向上の職員研修】 ◇８割以上の職員が人権関連の研修会へ一人一研修参加すること ◇研修成果を教科やLHR等に還元	【人権教育・性教育】 ◇人権教育LHR・性教育LHRの実施 ◇WYSH教育LHRを第１学年で実施 ◇特別支援育支援員の活用 【ハイパーＱＵ、いじめアンケート等の活用】 ◇ハイパーQUを分析し、生徒理解とクラス運営に活用 ◇いじめアンケート、生徒会伝言ＢＯＸ、相談室等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等、関係分掌と情報を共有 ◇外部関係機関との連携 【指導力向上の職員研修】 ◇研修会や講演会の情報を発信し、研修会への参加を促進 ◇事前学習などと人権教育LHRの指導案の協議	【人権教育・性教育】 ◇人権教育ＬＨＲの事前研修・事後研修の時間が十分に取れていない ◇WYSH教育研修会に参加 ◇特別支援育支援員と連携し、支援を要する生徒への面談を実施し、実態に合った支援を実施 ◇校内人権教育研修会（職員向け）を実施 ◇人権問題講演会を実施 ◇人権教育や特別支援の視点に立ち、教室環境の整備を職員全体で実施 【ハイパーＱＵ、いじめアンケート等の活用】 ◇hyper-Ｑ ＵアンケートをＷＹＳＨ、その活用に関する職員研修会を11月に実施予定 ◇いじめ等に関するアンケートを実施し、問題の早期発見・対応に努め、関係職員と連携し、適切に対応 ◇ソーシャルスキルLHRを実施 ◇特別支援計画書を作成し、活用に努めた。 【指導力向上の職員研修】 ◇研修会や講演会の情報をこまめに情報発信し研修会への参加を促進し、参加資料を共有化 ◇校外の人権教育関係の研修への参加を促した。 ◇人権教育LHRの指導案をもとに協議をした。	C	【人権教育・性教育】 ◇人権教育ＬＨＲに向けての事前研修・事後研修の充実 ◇WYSH教育ＬＨＲの実施 ◇公開人権教育ＬＨＲの実施 ◇性教育ＬＨＲの実施 ◇人権教育や特別支援の視点に立ち、教室環境の整備を職員全体で継続実施 【ハイパーＱＵ、いじめアンケート等の活用】 ◇第２回hyper-Ｑ Ｕアンケートと、その活用に関する職員研修会の実施 ◇hyper-QUの活用の促進 ◇第３回いじめ等に関するアンケートの実施 ◇特別支援職員研修会の実施 ◇支援を要する生徒への面談を実施し、実態に合った支援を継続実施 ◇特別支援計画書の周知 【指導力向上の職員研修】 ◇校外の人権教育関係の研修への参加呼びかけ（スケジューラー、個人案内等）
	② 健全な心身と社会貢献精神の育成		【基本的生活習慣の確立】 ◇「５Ｓ･あさひ」の考えは生徒、職員に浸透した、主体的な取り組みに課題 ◇挨拶は改善傾向にあるが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ◇学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守る規範意識の更なる向上に課題 ◇頭髪検査で不合格となる生徒が全校で各回毎に平均25.4名 ◇正しい制服の着こなしが不徹底 【ボランティア活動】 ◇活動が活発化しており、その流れの継承が必須 (平成29年度実績：テクノボランティア25名、「ダメ、絶対」街頭キャンペーン2名、鳥取砂丘除草8名、 とっとりサイエンスクールボランティア50名、八頭町ものづくり教室5名、鳥っきボランティア4名、 万引き防止ボランティア11名、高校生ボランティアサミット2018　2名、合計107名) 【部活動、生徒会活動】 ◇生徒会役員は校内行事に参加しているが、各クラス役員の参加が小数に留まっている （平成29年度実績：高校生マナーアップとわやか運動等） ◇平成29年度部活動実績：中国大会出場者数34人（平成28年度より2人増加） 【環境改善】 ◇ＴＥＡＳ活動の目標はクリア、更に現状に合った目標を設定し、活動を継続 【安全教育】 ◇昨年度、登下校時の自転車による事故が５件より交通ルール・マナーの遵守に課題 ◇ＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等の取り扱いに課題 ◇携帯電話とスマートフォンの「校地内での使用禁止」は概ね定着	【基本的生活習慣の確立】 ◇「５Ｓ･あさひ」に主体的に取り組める生徒の増加 ◇いじわるごっこを題にても自分から挨拶できる生徒が多数以上 ◇掃範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ◇頭髪検査の不合格者数半減 ◇正しい制服の着こなしの定着 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の参加者がＨ29年比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ◇各クラス役員の活動と生徒会活動が活発化 ◇部活動において、平成29年度の中国大会出場者数と同等比 （全校生徒に対し）１２６人を維持 【環境改善】 ◇廃棄物は2016年度比5%減、電力消費は2016年度比3%減 【安全教育】 ◇交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ◇登下校時の無事故達成 ◇掃範意識の向上とルール・マナーの実践力が向上	【基本的生活習慣の確立】 ◇「５Ｓ･あさひの日」を継続し、 ◇生徒・職員によるあいさつ運動の推進 ◇日常的な頭髪・服装指導 ◇頭髪検査の実施と継続的な事後指導 ◇問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の場を広報し奨励 【部活動、生徒会活動】 ◇各クラス役員、生徒会役員の体育祭、文化祭、球技大会への積極的参加 ◇部活動における外部指導者の活用 【環境改善】 ◇標語、環境ＬＨＲ、環境講演会等による教職員、生徒への啓発 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通指導の継続 ◇各種安全教室の実施（携帯マナー講習、自転車安全、非行防止・薬物乱用防止教室等）	【基本的生活習慣の確立】 ◇「５Ｓ･あさひの日」を継続し、教室環境の整備に努めた。 ◇生徒・職員によるあいさつ運動の推進により、自ら挨拶する生徒が以前より増加した。 ◇日常的頭髪・服装指導の実施により、不備な生徒は減少した。 ◇頭髪検査の実施と事後指導の徹底が学年によりばらつきがあった。 ◇問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施により、問題行動は減少している。 ◇無許可自転車、無施錠自転車等は見回りにより減少。自転車駐輪マナーも向上。 ◇作法講習会の実施 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動 ボランティア体験事業2人、鳥取砂丘除草25人、テクノボランティア18名、八頭町ものづくり教室5人 【部活動、生徒会活動】 ◇前期生徒会選挙を行い会長及び生徒会役員の定数18人に対し17名が決まった。 ◇球技大会、文化祭など各行事において役割分担を決めて動け合いながら生徒主体の活動ができた。 ◇生徒会執行部主体となり年度当初にあいさつ運動を行い、高校生マナーアップとわやか運動に参加した。 ◇部活動に88%の生徒が入部している。 【環境改善】 ◇７月末の達成状況は、廃棄物2016年度比14.3%減、電力2016年度比3.4%増となっている。 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通指導の継続 ◇各種安全教室の実施（携帯マナー講習、自転車安全、非行防止・薬物乱用防止教室等）	C	【基本的生活習慣の確立】 ◇「５Ｓ･あさひの日」を継続し。教物内美化に拡大したい。 「５Ｓの日」がしばその先への転換の必要性について検討。 ◇自ら挨拶できる生徒が８割の達成に向けて更なる挨拶の徹底。 ◇頭髪・服装指導の充実に向けた取り組み。（靴下・インナーなども） ◇生徒指導方針の徹底 【ボランティア活動】 ◇今後も続けてボランティア活動の場を広報する。 【部活動、生徒会活動】 ◇生徒会活動のさらなる活性化の推進 【環境改善】 ◇達成状況を生徒・職員に周知し廃棄物・電力使用量削減に努める。 ◇生徒が自主的に行事の準備を進められるよう適宜打ち合わせを行う。 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通指導の継続 ◇各種安全教室のより効果的な実施に向けての検討
3 キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得		【人材育成】 ◇鳥工版デュアルシステムは７名参加。企業見学、インターンシップ等を体験。 ◇ＳＨＲ等を通して補習、各種大会への積極的参加の奨励 ◇機　械　科　：高校生ものづくりコンテスト（旋盤作業部門）中国地区大会出場 中国地区高校生溶接技術競技会出場 ◇制御・情報科：３級技能検定電子機器組立て（前期）１４名中１０名合格で７１％の合格率 高校生ものづくりコンテストとしてマイクロホームにそれぞれ大会出場 ものづくりコンテストでは中国地区大会準優勝 若年者ものづくり競技大会に出場し、職業能力開発総合大学校長特別賞を受賞 ◇電　気　科　：放課後や長期休業中に資格取得・基礎学力向上補習の実施、資格・検定を 積極的奨励高校生もものづくりコンテスト（電気工事部門）中国地区大会出場 ◇建設工学科：測量士補に３名が合格。一方高校生のづくりコンテスト（測量部門）では、 中国大会へ出場、ジュニマイスター特別賞も1名が受賞 【「工業技術基礎」（共通実習）の充実】 ◇レポート内容への赤ペン指導やコメント記入などの添削を実施 ◇提出期限の前日確認指示はできていないが、未提出者への提出指導を充実	【人材育成】 ◇勤労観、職業観をもつ ◇「５Ｓ」の定着 ◇専門的な知識や技術の向上のために卒業までに一人一資格以上を取得する 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ◇レポートなど提出期限の遵守	【人材育成】 ◇資格、検定取得が就職・進学に大きなプラスになることを認識させ、資格・検定の受験の促進 ◇技能検定、高校生ものづくりコンテスト大会への参加の啓発指導の継続 ◇資格取得実績が伴う効果的な学習計画の立案と指導・支援の実施 ◇資格データベースの適切な入力と活用 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ◇レポート内容への赤ペン指導やコメント記入状況の確認・提出指示 ◇共通実習のレポート未提出者への指導は工業学科４科が連携する	【人材育成】 ◇鳥工版デュアルシステムは６名、インターンシップは工業学科２年生全員が予定どおり体験 ◇資格取得（合格者数／受験者数） 日本漢字能力検定2級（１／４）、準２級（２／７）、３級（０／１） 実用英語検定２級（０／１）、準２級（２／５）、３級（４／４） 危険物取扱者乙種４類（１／１３）、計算技術検定３級（６１／７１） 製図検定（１２／６８）、基礎製図検定（４３／１４９） 初級ＣＡＤ検定（１９／３２）、ガス溶接技能講習（１１／１１） 第二種電気工事士＜上期＞（１１／３０） 建築施工管理技術検定２級学科（３／１０） 技能検定＜前期＞ ３級電子機器組立て（１４／２５）、３級機械検査（３／４） ◇機械科では高校生ものづくりコンテスト（旋盤作業部門）中国地区大会出場及び中国地区高校生溶接技術競技会出場 ◇建設工学科では高校生ものづくりコンテスト（木材加工部門）で中国大会へ出場 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ◇レポート内容への赤ペン指導やコメント記入などの添削を実施 ◇提出期限の前日確認指示はできていないが、未提出者への提出指導を実施	C	【人材育成】 ◇資格、検定取得が就職・進学に大きなプラスになることを認識させ、資格・検定の受験の促進 ◇技能検定、高校生ものづくりコンテスト大会への参加の啓発指導の継続 ◇後期技能検定の受験者を募り、合格へと指導。各種資格・検定を利職員でバックアップしながら補習等の指導の実施 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ◇レポート提出期限前日のSHRで提出の指示を徹底
	② 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底		【職業意識の育成】 ◇インターンシップ、企業見学、応募前職場見学、社会人講師による授業等を実施 ◇インターンシップでは企業との事後協議会を開催 ◇校内独自の企業見学会に加え鳥取市雇用促進協議会主催の見学会に参加 ◇アルバイト就業事業に延べ１３名が参加 ◇資格取得を奨励 【進路指導の徹底】 ◇進路希望調査を定期に行い、保護者とともに生徒の進路を検討、再確認 ◇昼休憩に「企業・学校説明会」を実施し、生徒が直接企業や学校と話せる機会を設定 ◇工業科２年生の就職希望者全員を対象に、キャリアアドバイザーの面談を実施 ◇10人面接を実施し、就職希望者は94%の生徒が10人終了で受験 ◇就職選考試験の１回目合格率は目標の９０％に届かず（８７％） ◇進学補習を計画どおり実施 ◇理数工学科においては「理数工学Ⅰ」、「理数工学探究」への取り組み及び高大交流事業・ 大学訪問を実施 ◇国公立の上級学校に１０名合格 ◇「進路の手引き」を反省に基づき改定	【職業意識の育成】 ◇地域や企業と連携した活動及び校内外の進路行事等を通じ、職業観、勤労意識をもつ ◇専門的な知識や技術・技能が定着 【進路指導の徹底】 ◇キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で確立 ◇１０人面接にとり、礼儀、作法を身につけるとともにコミュニケーション能力を高めて受験 ◇一回目の就職試験合格率90%以上 ◇工業学科も含め様々な入試制度を活用し、国公立大学に１０名以上合格	【職業意識の育成】 ◇インターンシップや鳥工版デュアルシステム、企業見学への積極的な参加の奨励 ◇インターンシップにおける学科の専門性と一致した企業の確保と、企業に向かう心構え等、事前指導と事後指導を実施 ◇企業見学等で訪問企業が重複しない調整と、進路決定までにより多くの企業を知る機会の確保 ◇進学希望者対象の企業見学と、進学後を見据えた進路決定の支援 ◇社会人となることへの心構えを意識した外部就職ガイダンス等、各種進路行事への参加 【進路指導の徹底】 ◇校内における進路行事に保護者へも参加を案内 ◇進路面談に加え進路相談会を実施 ◇企業・学校説明会への参加企業・学校数の増加とともに早期に実施 ◇３年就職希望者へ１０人面接を早期に実施 ◇「進路の手引き」を活用し、計画的な進路指導 ◇引き続き進学補習の計画をし、放課後・土曜日に実施 ◇個別進路面接を２年生の３学期から開始、３年生４月時点での進路意識高揚 ◇校内進路ＨＰの構成の見直しと、進路選択への有効な情報の提供	【職業意識の育成】 ◇インターンシップ、企業見学、応募前職場見学、社会人講師による授業等を実施 ◇インターンシップ、企業見学会では事前指導を行ってから実施 ◇アルバイト就業事業に１０名が参加 ◇資格取得を奨励 ◇３年生就職希望者は夏休みに開催された就職ガイダンスに８２名が参加 【進路指導の徹底】 ◇５月の３年生進路ガイダンス、１０月の１，２年生分野別進路ガイダンスは保護者にも案内 ◇７月の保護者懇談後、ハローワーク鳥取のジョブサポーターを招いて就職相談会を開催 ◇昼休憩に「企業・学校説明会」を実施し、企業等18社、学校校来校し、生徒が直接企業や学校と話をする機会を設定 （昨年に比べ企業６社、学校３校増） ◇昨年６月から行われた１０人面接は５月から実施したが、３年生の動きは遅く、７月になって動き出す生徒が多数 ◇１０人面接は、８月の推薦委員会までに就職希望者全員が８人終了に出願 ◇「進路の手引き」は昨年の反省を踏まえて改訂し、進路ＬＨＲに活用 ◇進学補習を計画に基づいて実施 ◇２年生の個別進路面接は３学期実施予定 ◇基礎力診断テストの結果を学年・担任に返し、Dゾーンの生徒を指導 ◇１回目の就職試験合格率９０％以上達成（９１％）	B	【職業意識の育成】 ◇今後も企業見学前に研修を行ってから実施 ◇冬季のアルバイト就業事業の生徒への紹介 ◇継続した資格取得の奨励 ◇就職内定者は、冬季開催の就職セミナーに参加 【進路指導の徹底】 ◇定期的に面接の機会を設定、担任団・科職員による面談の実施 ◇進路ガイダンスへの参加を保護者へも案内、保護者とともに生徒の進路の検討 ◇理数工学科においては研修旅行で県外大学の訪問、進学意欲の醸成 ◇進学補習を休講にすることなく実施 ◇基礎力診断テストを含め外部模試の結果を担任、教科へフィードバック、効果的な指導の検討 ◇就職が内定した生徒に対し、企業から課題をいただき社会人としての意識を高揚 ◇２年生就職希望者には、キャリアアドバイザーとの面接を実施、３年での進路決定への取り組みが円滑に行えるよう支援
	③ 地域や産業界との連携強化		【人材育成】 ◇企業見学、インターンシップなどの各事業を実施 【情報発信】 ◇ＨＰの更新も昨年に引き続き、増加傾向 ◇出前授業や中学校体験入学など概ね反応は良好 ◇学年通信などを１年を通して発行し、学校の見える化を図っている学年あり 【地域との連携】 ◇桜ヶ丘グリーンゾーンの清掃活動の保護者、部活動生徒の参加は例年並み ◇テクノボランティアは例年通り７月と１２月に実施 【ＰＴＡ活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールを発信　◇各事業の参加者は若干の増減があるものの概ね例年並み ◇食育講演会（９月：１３名参加）を実施 ◇新規事業として手話講演会（７月、１１月：延べ２９名参加）を実施	【人材育成】 ◇企業、地域産業から求められる能力を取得 ◇生徒自身が個性を活かせる企業へ就職 【情報発信】 ◇「ものづくり」の体験を含めた地域や小・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ◇生徒が率先してボランティア等、地域と連携した貢献活動に参加 【ＰＴＡ活動の推進】 ◇保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化 ◇保護者、地域の方々が本校の生徒指導方針に則った生徒の見守り	【人材育成】 ◇企業見学、インターンシップ、鳥工版デュアルシステムなど企業に向かう姿勢・態度等の事前事後指導 【情報発信】 ◇各事業、学校行事などの情報を事前にＨＰで発信する回数の増加 ◇工業に興味が持てる内容の出前授業を拡大 【地域との連携】 ◇生徒会などの協力を得ながら、マナーアップ運動、テクノボランティア等地域に対する積極的なボランティア活動 【ＰＴＡ活動の推進】 ◇まちこみメールでの広報の迅速化を継続実施 ◇ＰＴＡ活動の深化、科ごとの取り組みがわかるような科別ＰＴＡの実施 ◇ＰＴＡだより等を通じて、保護者への生徒指導方針の周知	【人材育成】 ◇企業見学、インターンシップなど各事業は事前事後指導を含め実施 【情報発信】 ◇ＨＰの更新も昨年に引き続き、増加傾向 ◇出前授業や中学校体験入学など概ね反応は良好、進路選択への影響は不明 ◇学年通信などを発行して学校の見える化を図っている学年あり 【地域との連携】 ◇清掃活動は荒天のため中止、マナーアップさわやか運動への保護者の参加は増加 ◇７月にテクノボランティアを18名で実施 【ＰＴＡ活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールを発信 ◇各事業の参加者はクラス減及び部活動の大会日程などの影響もあり、全体的に減少傾向 ◇行事の精選を実施 ◇科別PTA、手話講演会は本年度も継続して実施	C	【人材育成】 ◇継続指導を行い、生徒への意識の徹底 【情報発信】 ◇行事ごとの保護者への参加を促すＨＰやまちこみメールの継続活用 ◇テクノボランティアの継続実施や各種事への出展、タイムリーな記事をＨＰ等で情報発信 【地域との連携】 ◇津ノ井地域懇談会、地域文化祭などへの積極的な参加と、地域とのより一層の交流 ◇テクノボランティア等による地域貢献活動の継続実施 【ＰＴＡ活動の推進】 ◇生徒の様子を踏まえ、継続できる部分は継続しながらＰＴＡ活動の拡大及び内容充実

注）　５Ｓ：整理･整頓･清掃･清潔･躾　あさひ：挨拶･作法･人の話を聴く　ＷＹＳＨ教育：性に関する教育　ハイパーＱＵアンケート：よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート　デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム　テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動　AL：アクティブ･ラーニング